



発行日：平成 25 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆H25年度の川部会WGがスタートしました！

矢作川流域圏懇談会の新たな3年間のサイクルの始まりです。H25年度最初の川部会WGの活動は、市民提案による開催となり、5月17日に第9回の活動が行なわれました。市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 5 月 17 日（金）9:00～11:30
場所：安永川排水樋門、
渡合地区災害復旧事業現場付近
参加者：19名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1. 安永川改修事業、及び安永川排水樋門について



安永川改修事業、及び安永川排水樋門について、豊田市建設部河川課の須藤氏より、説明を伺いました。

- 豊田市街地は標高が低く、水がたまりやすい地形で、S.37年やH.12年の豪雨で浸水被害を受けたことが事業の契機となった。
- トンネル部の流下能力は、現況 $10\text{m}^3/\text{s}$ (S.10-16に整備) から $90\text{m}^3/\text{s}$ に改修する計画で進めている。
- トンネルより上流区間や下流区間は、自然環境に配慮した川を整備する予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・樋門下流の整備した魚道に、魚は上りそうか。(碓)
- ・2kmの暗いトンネルを通過して豊田市街地までいけるか。(阿部)
 - ▶ この魚道やトンネルを通して、魚が豊田市街地まで遡上して欲しいという思いで整備している。実際に魚が遡上してくれるかは、まだわからない。(栗木)
- ・取り付け護岸のコンクリートが目立ちすぎて、上下流の護岸と同様に覆土できないか。(阿部)
- ・魚道内に碎石を積んで、スロープ状とすれば、アユだけでなくいろんな生き物が上れる可能性があるのでは。(光岡)
- ・上流に魚を上らせるのであれば、トンネル内も同様に、河床を工夫する必要がある。(阿部)
- ・安永川合流部下流には、明治用水頭首工下流においては貴重な良い瀬がある。本流への影響は考えられているか。(阿部)
 - ▶ まだ通水していない状態なので、通水後の状況をモニタリングしながら、対応を考えていきたい。事業が完成した後であっても、手をつけられないとは思っておらず、工夫してより良いものにしていきたい。(栗木)
- ・整備する時には、漁協だけでなく、様々な立場の人に意見を聞けるとよい。(碓)
- ・取付け水路は水深があり、樋門側からトンネル内部にも侵入できてしまうため、子どもの安全対策が課題である。(小林)



安永川排水樋門での意見交換の様子



安永川合流点下流の瀬の様子

2. 渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について



渡合地区の災害復旧事業（護岸改修）について、国土交通省豊橋河川事務所岡崎出張所の小林所長より、説明を伺いました。

- 左岸側への水あたりが弱まるよう、低水路右岸側の州を掘削して、水路をつくった。
- 今は直線の水路であるが、残った州や水路を利用して、ワンド等の実験場とすることも可能と考えている。
- 左岸側は、災害復旧事業により護岸改修したもので、整備する区間は、上下流にもう少し延長される予定である。

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

（・意見 ▶ 回答）

- ・整備された護岸の規模が相当大きく見えるが、本当に必要なのか？安全率を高くみ過ぎているのでは？（内田）
 - ▶ 今回の護岸整備箇所は、元々急傾斜で、背後地は石混じりの砂質のため、工事がかなり大変な場所であった。（小林）
 - ▶ 上段部分は、マットとシートを貼っているだけで、今後、芝張り等を行う予定である。（小林）
- ・下段のテトラポットと中段のコンクリートブロックは問題である。ただウナギなどは生息できるかもしれない。
- ・提供資料の航空写真の経年変化を見ると、昔は、濡筋の片寄りは見られないが、ここ10年で岩が顕れ、濡筋は左岸側に变化してきているように見える。河床が低下した影響ではないか。（内田）
- ・ワンドなどの実験場とするのは、おもしろいと思う。（高橋伸）
- ・この付近は、河床低下が大きい場所でそれでも治水上問題となっている場所である。右岸側の樹林地も含めて、広い範囲で考える必要があるのではないか。（内田）



渡合地区対岸での意見交換の様子



渡合地区の災害復旧の様子

第10回川部会WGのお知らせ



次回は、家下川の取り組み状況を現地視察した後、場所を移動して、川部会WGの今年度の活動計画などについて、意見交換を行います。当日は、柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側）に15時集合です。第1部のみ、第2部のみ参加も可能ですので、お時間の都合のつく方は、是非参加ください。

日時：平成25年6月13日（木）15時～20時

○ 第1部：家下川現地視察

時間：15時～17時

場所：家下川（集合場所：柳川瀬公園駐車場（ひょうたん池北側））

○ 第2部：意見交換（川部会WGの今年度の活動計画などについて）

時間：18時～20時

場所：豊田市職員会館2F 第1会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。





発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 10 回川部会 WG を開催しました！

6 月 13 日に矢作川流域圏懇談会第 10 回川部会WGは、家下川流域の現地調査と、市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 6 月 13 日(金) 15:00～20:40

調査場所：家下川流域

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：19 名（事務局含む）

◆WGで議論した主な内容

【家下川の課題と解決策について】

- 家下川一承水溝一長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとした。
- 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を確認できるとよい。
- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、その状況を確認した。

【川部会の活動の方向性について】

- 川部会WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。
- 川部会WGの活動を積極的にPRし、エビデンスになるようにしてほしい。
- 川部会WGでは、国・県・市で実施する事業があれば、議論し提案できる場としたい。3モデルの対象エリアにとらわれず、提案があればレスポンスできる体制としたい。



長池での意見交換の様子



長池一承水溝の段差



承水溝前での意見交換の様子



承水溝一矢作川の合流箇所



家下川合流点段差改善箇所



家下川合流点の導流堤

第 1 部：家下川現地調査



(1) 柳川瀬公園付近（長池一承水溝一家下川）

矢作川水族館の阿部氏より、長池の状況について説明を伺いました。

- 長池に水が供給されると、水位は例年より高くなり、水質はかなり改善される。
- 長池には流れがほとんどないため、魚の産卵地にはなっていない。
- 長池一承水溝一家下川の平常時の水位が異なることが、問題である。

【意見交換】

（・意見 ▶ 回答）

- ・家下川一承水溝一長池の理想形を考えておく必要がある。（光岡）
- ・用水系統の末端に近いので、運用で水源を確保できる可能性はある。家下川などから水源確保可能か、物理的な高さについて、確認することができればよい。水利権について、今後整理が必要である。（鷺見）
- ・水源となる水は余分があれば流してほしく、常時必要なものではない。（阿部）
- ・長池にどの程度の流量があるとよいか、わかるとよい（鷺見）
- ・承水溝のポンプ場付近は、公園の砂が流れ込み陸地化しそうな状況である。ポンプ改修と合わせて、浚渫できる可能性がある。（阿部）
- ・承水溝と家下川は、小トンネルでつながり流れがある。以前に、承水溝の水位を上げたときは、トンネル手前に角落としを入れて堰上げた。（阿部）

(2) 家下川合流点の段差改善箇所

国土交通省豊橋河川事務所の新高副所長より、家下川合流点の段差改善について説明を伺いました。

- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。
- 昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護（袋詰め玉石など）を検討している。

(3) 県・市管理境界付近

(・意見 ▶ 回答)

- ・明治用水の耐震改修に合わせて、明治用水下の暗渠部の断面を大きく改修する予定であり、用水管理者と調整を始めている状況である。
- ・明治用水下のトンネルは、歴史遺産として保存してほしいという話がある。



県・市管理境界上流の様子

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・川部会の3ヶ年、あるいは当面の1年についていかがか。(鷺見)
- ・川部会としては、何をアクションと捉えて活動するか。(光岡)
 - ▶ WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。(鷺見)
- ・白浜工区の事業のように、国、県、市の事業に対して提案していくことが成果とできるとよい。(内田)
 - ▶ 懇談会は元々、整備計画で位置づけて開催しているので、本来の趣旨に則したものと言える。(新高)
 - ▶ それを積極的にPRし、エビデンスになるよう明示してほしい。国、県、市で実施する事業としてあれば提示いただき、議論し提案する場としたい。(鷺見)
- ・安永川や渡合地区の災害復旧事業が、懇談会を通さずに行われたことが、今後の課題である。(光岡)
- ・モデルというフレームワークをどうするか。本来の家下川モデルや本川モデルからはずれるエリアでも同様に、議論の対象にできないか。(鷺見)
 - ▶ 現場としては、工事のスケジュールもあるので、早急に皆さんとお話したいと思っている事案がある。(小林)
 - ▶ 事務所で今年度やろうとしている事業については、WGの中でご説明したい。(新高)
 - ▶ 家下川の場合、水位を上げようとした場合に、どの程度の水位がよいか、検討できればよい。(阿部)
 - ▶ 安城市では、多自然川づくりの事業を毎年少しずつ進めている。ここで議論することが問題なければ、提示して議論いただきたい事案がある。(早川)
- ・WGは、3モデルの対象エリアにとらわれず、自由度のある中でやっていきたい。ただし、関わり方は、これまで検討してきたモデルのように取り組むことはできないが、提案があればレスポンスできる体制としたい。(鷺見)
- ・生き物に配慮するといっても、決定的な工法がないのが現状である。個々の対応も必要だが、基本を考えておく必要もある。(本守)
- ・まず、今できる工法がどういうものがあるか考える必要がある。(鷺見)

今後の川部会 WG の予定



■第11回(本川モデル)

日時：平成25年7月12日(金) 13:00~19:30

○本川現地視察：瀬・淵、合流箇所

○意見交換

場所：豊田市職員会館2階 第1会議室

■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00

場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

